

自然資源経営学科

1. 教育研究上の目的

本学科は、自然資源を活かした農林水産業、食品加工業、観光業、環境ビジネスなど、地域の生物産業を支える経営を実践するための経営学理念を修得するとともに、生物産業を中心とした経営体の持続的発展、産業間連携の支援を通じて地域産業の再生・活性化・創造に貢献し、地域産業の担い手たる人材を養成する。

2. 教育目標

自然資源経営学科は、その教育研究上の目的を踏まえ、次のような者の養成を教育目標とする。

- (1) 広義の農学である生物産業学を基盤とした自然資源経営学における専門知識と技術を有する者
- (2) 専門家としての責任を自覚し、実学主義のもと問題解決能力と意欲を有する者
- (3) 適切なコミュニケーションおよびプレゼンテーション能力を有し、社会貢献ができる者

3. ディプロマ・ポリシー

自然資源経営学科は、北海道オホーツク地域という恵まれたフィールドを活かし、そこで展開される生物産業の現場に触れながら実践的なビジネス感覚を養い、環境共生を視野に入れた新しいビジネスを創出するスキルを身につけた人材を輩出するため、実学を重視した体系的な授業科目を履修・修得し、卒業論文を提出することを学位授与の要件とするとともに、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。

- (1) 地域ビジネスや地域産業を支える経営手法の知識や技術、コミュニケーションなどの能力を身につけている。
- (2) ゼミナールにおける諸活動や研修による体験的・実践的活動に基づき、社会を見る広い視野、自らの意思を適切に表現できる能力を有し、地域や海外で活動できる能力を身につけている。
- (3) 卒業論文作成に取り組み、情報収集力、論理的思考力や問題解決力、文章表現力およびプレゼンテーション能力を身につけている。
- (4) 本学科での教育研究および課外活動から修得した知識や体験を活かし、学修の成果を地域社会に還元し活躍しうる能力を身につけている。

4. カリキュラム・ポリシー

自然資源経営学科は、生物産業（生産-加工-流通・ビジネス）を一貫して学ぶための学部共通科目とともに、実学を重視した専門教育科目の体系的な履修を通して、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけるため、以下の方針の下に教育課程を編成します。

- （１）実践的なビジネス感覚を養い、環境共生を視野に入れた新しいビジネスを創出するスキルを身につけるために、社会科学の基礎となる経営学・経済学に関する理論や実践的な分析手法とビジネスプランを修得するための科目を配当する。
- （２）地域ビジネスや地域産業を支える経営手法の知識や技術を身につけるために、生物産業の持続的発展と地域社会の活性化に寄与できる担い手として必要な専門知識を修得するための科目を配当する。
- （３）北海道オホーツク地域という恵まれたフィールドを活かし、そこで展開される生物産業の現場に触れながら体験的・実践的活動に基づき、社会を見る広い視野を養うために、オホーツク地域の自然環境や研究フィールドを活かした実習演習科目や、それらに関連した専門科目を配当する。
- （４）情報収集力、論理的思考力や問題解決力、文章表現力およびプレゼンテーション能力を育成するための科目を配当し、そのうえで４年間の学修の集大成となる卒業論文を必修科目として配当する。

5. アドミッション・ポリシー

自然資源経営学科は、生物産業（生産-加工-流通・ビジネス）と自然環境の共生という学部共通の学びを基盤とし、北海道オホーツク地域のフィールド環境を活かして、生物産業を中心とした経営体の持続的発展と地域ビジネス創造、産業間・農商工連携の支援手法、６次産業化支援プログラム、さらに社会の要請する課題やニーズに対応できる分析力や能力を兼ね備えた起業家ならびに生物産業における新しい市場を創出して地域社会に貢献できる人材を養成します。そのため、本学科では、次のような学生を求めています。

- （１）本学の教育理念である実学主義のもとで、将来、地域や組織のリーダーとして社会に貢献したいという強い意思を有している。
- （２）生物産業の持続的発展や自然環境との共生に関心を持ち、明確な問題意識と強い学修意欲を有している。
- （３）心身共に健全で自立した社会生活ができ、人間関係の構築を可能にするコミュニケーション能力を有している。
- （４）高校までの基礎学力を修得し、さらに社会的な関心と知識を有している。